

Title	南面して座する時は其東方が上席?
Sub Title	
Author	國分, 剛二(Kokubu, Goji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.3 (1930. 9) ,p.154(510)- 154(510)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300900-0154

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

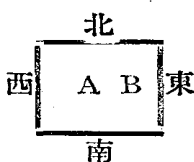
The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

南面して座する時は其東方が上席か？

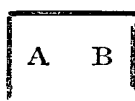
南面して座する時は、其東方が上席で、即ち東端の人が上席であると思ひます。それは日本の國土は日出と共に光が東方から輝くからであります。紫宸殿が南面して建てられて居るのは如何なる理由であるか知りませんが、温帶國である日本人が太陽を崇拜するのは、明るく暖き太陽の光線を慕ふからであると思ひます。故に太陽の光線を最も長時間浴する事が出来れば、それが一つの幸福となるのであります。蓋し幾ら野蠻時代でも物事には基準といふものがなければならぬものと思ひます。此の基準を定めるには、人が定めたでは、なか／＼決りませんが、神が定めたとすれば何人も異存がないのでありますから、昔は多く不可思議な自然の現象を以て、神の力であること定め、此の神の力を利用して基準を定めたのであります。即ち太陽の正座も、出没时间は季によつて變りがあるから、絶対不變な正午——自分の眞上から太陽が照す時を基準として之を固く定めたのであります。此の正の位置に座するには南面するのが順當である事は光が日出には東方より輝き日没には西方より照るから、最も長時間、幸福の光を浴びる事が出来るからであります。日本の座敷も東と南を開いて北側の東端に床間があるのが、正式である事聞いて居りますが、理由は以上の次第があつた事かと窺れます。尙ほアイヌの家屋を見ても、東方と南方の窓からは善神が來さ申して居ります。従て熊祭の犠牲に使つた熊の頭を祀つて置く最も神聖な祭壇(實名があるであらうが假りに祭壇と書いて置く)も東方と南方の窓に近い所にあるのであります。

そこで南面して座するのが正座とすれば、主人と從者があつて座さなければならぬと考へて居るのであります。昔の土佐派で描いた紙雛の繪も第三圖のやうに並んで居るのであります。尤も私は御即位式の故實は知りませんが、天皇陛下と皇后陛下と御並び遊ばされて、御即位式を御擧げ遊ばされるものではなく、天皇陛下が御一人の御事と拜承して居るのであります。故に若し皇后陛下も其の式に御出で遊ばされるならば、第四圖のやうにしなければならぬものではないかと愚考する次第であります。従つて雛飾も之に準ずるのが順當であると思はれるのであります。此事は切に諸賢の高教を仰ぎたいのであります。

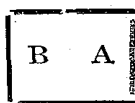
(圖一第)

A 高御座
B 御帳臺

(圖二第)

A 男雛
B 女雛

(圖三第)



(圖四第)

